



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### レバノン：捕虜交換に関するナスラッター・ヒズボラ書記長の発言（10月17日付現地報道）

10月15日、イスラエルとレバノンの国境にあるナクラで、イスラエル兵士1人の遺体とヒズボラ・メンバー2人の遺体が交換された。翌16日のナスラッター・ヒズボラ書記長の発言（概要）。

1. ヒズボラは全ての捕虜の解放と戦死者の遺体の返還を目指している。ヒズボラとイスラエル間の交渉は、数ヶ月前、国連事務総長が指名した仲介者を通じて始まった。
2. イスラエルは当初、ヒズボラが関係しないものを含めて要求してきた。例えば、昨年7月12日にヒズボラが捕虜にしたイスラエル軍兵士2人について要求すると同時に、1982年の西ベカー郡スルタン・ヤコブ村での戦闘で行方不明になった兵士について要求したり、ロン・アラト航法士（注：1986年にレバノンで捕虜となった後行方不明となったイスラエル軍航法士）の問題を提起してきた。これに対しヒズボラは、1982年にレバニーズ・フォーシーズにより誘拐されイスラエルに連行されたと見られるイラン外交官4人を含む全ての捕虜について返還を要求した。双方がそれぞれ全ての要求を持ち出せば、当然交渉は困難になり時間がかかる。
3. 暫く前に、ヒズボラは仲介者に対し、エチオピア出身のイスラエル人の遺体を通報し、身分証を提供し、交渉の用意があることを伝えた。その後仲介者から、ヒズボラがイスラエルに対し断食明け祭日に善意のイニシアティブを行い、イスラエルもヒズボラに対し同様のイニシアティブを行うとの提案があった。  
ヒズボラはこれを受け入れ、イスラエルに望みを尋ねた。イスラエルから、イスラエル人の遺体引渡しとある問題に関する情報提供を求めること、その見返りにイスラエルが昨年夏に捕虜にしたヒズボラ・メンバー5人のうち1人の釈放と遺体2体の引渡しを行う用意があることが伝えられた。ヒズボラは、イスラエルのイニシアティブを受け入れ、イスラエルもヒズボラのイニシアティブを受け入れた。  
なお、このイニシアティブは、人道問題に関する「善意」に基づくものであり、「信頼醸成」のためではない。又、これまでの捕虜交換の経験上、イスラエル政府内から情報が漏れ、交換が上手くいかなかったことがあったため、今回は秘匿を厳重に維持した。
4. 10月15日に実現した捕虜と遺体の返還は大きな成果であるが、捕虜交換問題の一部に過ぎない。しかし、より大きな捕虜交換を後押しする。より大きな捕虜交換に関する交渉は、早いペースで継続的に行われている。又、今この場で初めて、2人のイスラエル軍兵士捕虜に関する交渉が前向きに進展していることを明らかにする。交渉が進展する希望があり、ヒズボラの交渉チームに期待している。自分は先行きを楽観的に見ている。